

==--==--==--==

編集後記

==--==--==--==

公私さまざまな所用ある中で論考や所感を寄せて頂いた会員の皆様にお礼申し上げます。

また、30 周年記念号に引き続き、今回も「貧乏くじ」を引いて頂いた増田隆一編集委員長に感謝いたします。近年 IT ソフトが発達しているとは言え、編集作業の成果は、①IT ソフトの機能、に加えて、②ソフトについてのリテラシー、③編集を進めるうえで必要となった作業的確かつ迅速に行う貢献意欲、の 3 要素によって決まります。②と③に関して、増田委員長に脱帽します。

_____ 編集委員・貫 隆夫

==--==--==--==

編集委員を拝命しながらあまり貢献できず、この編集後記を書くこと自体がおこがましいのですが、35 周年という節目を飾る記念誌の編集に関わる貴重な機会をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

多様な背景をもつ多文化研の執筆者ならではの強みが発揮された、唯一無二の作品として形になりました。

増田編集長の多大なるご尽力と類稀なる能力、パワフルなマネジメントの賜物で、ここに感謝と敬意を込めて、厚く御礼申し上げます。また、ご協力くださいました編集委員の皆様、本当にありがとうございました。

_____ 編集委員・李 錦純

==--==--==--==

多文化研創設 35 周年を祝する記念誌に、それぞれのご専門から論考やお言葉をお寄せいただきました会員の皆さまに謹んで御礼申し上げます。多文化研の多才な皆さまが生み出す知見に触れられることを、改めて嬉しく思っております。

何より、構想から企画、皆さまからの原稿のレイアウトを含め、完成までのプロセスを一手にお引き受けくださった増田隆一編集委員長に深く深く感謝申し上げます。増田様の力強いリーダーシップやマネジメント、さらに川村千鶴子多文化研理事長をはじめ、皆さま方の貴重なご意見があつて、この素晴らしい記念誌が完成いたします。

この度の記念誌に携わる機会をいただけた感謝の思いでいっぱいです。一方、自身の貢献が全く十分でなかったことをたいへん心苦しく思っております。

_____ 編集委員・明石 留美子

==--==--==--==

表紙は、ボルネオとサイパンの海にしました。

川村先生といえば、島と海。多文化研の先生方の、大国に翻弄される太平洋の島々の研究はインパクトがありました。そして、この 2 つの海も、大国同士が戦った激戦地でした。二度とこんな楽園を血の海にしてはならない – そんな思いを込めました。

世界中で排外主義と社会の分断が止まらない今、共存の知恵が詰まったこの記念誌が出されることを嬉しく思います。増田編集委員長、皆様、お疲れ様でした！

_____ 編集委員・下川 進

==--==--==--==

==--==--==--==

多文化社会研究会への入会以来、多方面で活躍されている会員の皆様の熱い思いに触れるたびに、私自身非常に啓発されて参りました。この度、とりわけ増田隆一委員長、川村千鶴子理事長、そして委員の皆様のご尽力により 35 周年記念誌が上梓されますことを心から嬉しく存じます。

_____ 編集委員・長谷川 礼

==--==--==--==

多文化共生に行政として携わり、個人的にも学びや関わりを持ち続ける中、川村千鶴子先生と多文化研には常に温かな視座をもってご指導、ご協力いただき、このたび 35 周年という記念すべき節目に、微力ながらも関わらせていただいたこと大変光栄に存じます。

思えば、川村先生との出会いは、15 年前、私が県国際課で多文化共生施策の実務担当者として奔走していた時でした。当時から、エスニックコミュニティに寄り添い、ライフサイクルの視座からコミュニティづくりに取り組まれていた先生に影響を受け、子ども、高齢者、コミュニティの視点から、NPO との協働企画を実施しました。その後、(一財)自治体国際化協会での全国の自治体の多文化共生支援に携わった際には、ポータルサイトの企画・運営に際して、川村先生と多文化研の皆様にご多大なるご協力をいただきました。現在も、クレアの多文化共生ポータルサイトでは、多文化研の皆様の多様で柔軟な発信力を活かした、様々なお立場での御提言、実践の様子が紹介され、全国の自治体、実践者の皆様の活動に活かされていることと存じます。

安心の居場所づくりは、誰もがウェルビーイングを実感できる社会づくりに不可欠ですが、多文化研はまさしく、自由闊達に意見を表明しあい、認め合い、推進していける安心・安全な場になっているように思います。多文化研ならではの、自由で多様な意見の数々が、このように発信力を持った形で記念誌にまとめ上げられたのは、ひとえに増田編集長の温かで前向きなお人柄とご尽力の賜物と存じます。また川村先生を始め委員の皆様、会員の皆様に、改めて心から感謝申し上げます。35 周年記念誌は、まさに、最新の多文化研究の知見と実践、提言の宝庫です。多文化共生・共創に携わる多くの皆様とのご縁が繋がり、その先のさらに多くの方々の手に渡り、実践に役立てていただければ幸いです。

_____ 編集委員・藤波香織

==--==--==--==

構想から 1 年半。印刷に辿りつきました。

でも、原稿が入り始めたのは最後の 2 ヶ月半。“トラック勝負”でした。

2024 年のクリスマス以降は、ヨロイ兜をつけて『雪山讃歌』を歌いながら、マイケル・ジャクソン『スリラー』の振り付けで、＜切り紙の曲切り＞をしているような気分でした。

終わってよかった～!!

_____ 編集委員長・増田 隆一